

来週の「売り物記事」はこれ

2019年5月10日号

毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝

＜アイスホッケー 世界最高峰への挑戦＞

12日(日)



ストーリー

アイスホッケーの世界最高峰リーグ「NHL」を目指す平野裕志朗(23)。今季は主に下部リーグにあたる「ECHL」のウィーリング・ネイラズでプレーし、19ゴール、38アシストと、結果で周囲の厳しい目に打ち勝って来ました。NHLでプレーした日本人はこれまでゴールキーパー1人だけです。「日本ホッケー界を変えるパイオニアになりたい」。厚く、大きな壁に挑む若者の挑戦を迫りました。



単価価格見て上手に買い物

くらしナビ面 13日(月)

商品の販売価格を、中身のグラム数などで割った単価価格のことを「ユニットプライス」と言います。この表示があると、商品の比較や、価格を変えずに減量する「ステルス値上げ」を見破るのに役立ちます。昨年11月に国際規格が発効しましたが、日本では一部自治体が条例などで規定しているだけで、内容もまちまち。全国統一の表示ルールを求める声も出ています。

北朝鮮、金正恩氏が意識する「革命の銃のバトン」

夕刊特集ワイド 13日(月)

ハノイでの米朝首脳会談で成果を見いだせなかった北朝鮮は、再び対米強硬路線に戻りつつあります。核・ミサイルを手放す動きも出ていません。その背景にあるのは、金正恩朝鮮労働党委員長が先祖から受け継いだと言われている「革命の銃のバトン」のせいかもしれません。後継へのプロセスの一端を明かした資料を入手しました。

都市対抗野球企画「社会人野球の現在地(いま)第3部・名選手に聞く」

スポーツ面 14日(火)から

今年で90回を迎える都市対抗野球は数々の名選手を生み出してきました。大会の歴史に名を刻んだ元大洋投手の平松政次さん、日本生命で投手だった杉浦正則さん、広島の中中広輔選手らに、社会人時代の思い出や社会人野球の意義、選手やファンへのメッセージを語ってもらいます。

大腸がん、早期発見するには

くらしナビ面 15日(水)

最新の統計によると、2016年に新たにがんと診断された患者は99万人にも上ります。「がん患者100万人時代」の到来とも言えますが、がんの原因や治療法などは発生した臓器ごとにさまざまです。シリーズ「がん大国白書」の新企画では、早期発見のための検査や治療法などを部位別に紹介していきます。第1部では、最も患者数の多い大腸がんを取り上げます。

新連載「スマレの香り」

科学面 16日(木)から

馳星周さんの新連載小説「スマレの香り」が、夕刊で始まります(一部地域では朝刊に掲載)。犬の訓練士をしていた男が、愛犬と各地を旅し、しつけ教室などを開いている中で、事件に遭遇します。馳さんは1996年に「不夜城」でデビューし、人間や社会の暗部を描いてきました。今作では「許しについて書いてみようと思っている」と話しています。



裁判員裁判 10年

社会部 16日(木)から

「国民の司法参加」を掲げた裁判員制度がスタートして21日で10年を迎えます。かつて日本の刑事裁判は膨大な書面の審査に多くの時間を費やしてきましたが、制度の導入とともに法廷は劇的に変わりました。裁判員、補充裁判員に選ばれた市民は9万人を超えます。10年の歩みを振り返りつつ、制度の意義と課題をさまざまな角度から検証します。

調べました 眉毛の育毛剤

くらしナビ面 18日(日)

読者の疑問に記者が取材して答える「調べました」。今回は「眉毛が薄くなったように感じます。髪の毛の養毛剤はありますが、眉毛用はありますか?」という兵庫県の女性の質問を取り上げます。探してみると、毛髪と同様に眉毛用にも、医薬品や医薬部外品、化粧品があることが分かりました。開発担当者に眉毛の薄毛や脱毛の原因、薬の効用などを聞きました。